TT-500A型ロケット13号機による宇宙材料実験等について

昭和58年8月15日 宇宙開発事業団

1. 概要

宇宙開発事業団は、TT-500A型ロケット13号機により無重力状態における炭素繊維強化金属複合材料、非混合系合金複合材料及び粒子分散型ガラス複合材料の製造実験並びに材料実験用搭載型装置の無重力下における機能確認を行います。

なお、製造実験に当たっては、東京工業大学(精密工学研究所、工学部、工業材料研究所) の協力を得て実施します。

2. 実験の内容

今回の13号機についての実験内容は次のとおりです。

実験テーマ	実験内容	備 考
炭素繊維強化	Al合金、気泡及び炭素繊維の混合物を電気炉内で	・ガス封入型電気炉
金属複合材料	加熱・溶融・冷却処理して、各成分が立体的にか	1台使用
の製造実験	らみ合う超軽量かつ高剛性をもつ発泡金属複合材	・ 対流のない状態で
	料の作製を行います。	ガスによる試料の
	(注) 髙剛性=外力に対して形がくずれに	加熱・冷却特性を
	くいこと	調べます。
非混合系	比重差が大きいため地上においては、溶けた状態	• 撹拌装置付電気炉
合金複合材料	で互いに混じり合わない二種の金属元素AlとInの	1台使用
の製造実験	混合粉末試料を電気炉内で加熱・溶融し超音波に	・ 超音波による撹拌
İ	よる撹拌を行い、冷却処理をして均質な組織をも	の効果を調べます。
	ち、かつ超電導等の特性をもつ新種の合金複合材	
	を作製します。	
粒子分散型	地上においてあらかじめ撹拌混合した酸化鉛(Pb0)	・ イメージ炉
ガラス複合材料	酸化ホウ素(B ₂ O ₃)及びダイヤモンド粉末からなる	1台使用
の製造実験	粉末試料を無重力下でイメージ炉内にて加熱・溶	・ ハロゲンランプの
	融・冷却処理してダイヤモンド粉末が均一分散し	無重力下での明る
	た超硬工具用素材の作製を行います。	さを測定し地上デ
		ータとの違いを調
		べます。

昭和 5 8 年 6 月科学技術庁研究調整局

ロケット機種及び号機	打上げ機関	打上げ予定日	打上げ予定時間	子 伽 日	目 的
CS-2b/N11 (F)	宇宙開発事業団	8月 6日 (土)	5時10分~ 6時10分 (8月6日(土)~9月4日(日)) 19時15分~20時15分 (9月5日(月)~9月19日(月))	8月 7日 (日) { 9月19日 (月)	通信衛星2号-b (CS-2b)を高度約36,000kmの静止軌道上東経136度に投入する。
TT-500A-13	"	8月13日 (土)	8時00分~ 8時30分 又は 11時30分~12時00分	8月14日(日) { 9月19日(月)	小型イメージ炉等の機能確認試験及びこれらを用いた粒子分散型ガラス複合材料等の 製造実験を行う。また、低高度において赤 外線分布の測定実験を行う。

/文部省宇宙科学研究所の観測ロケットは8月27日(土)から9月19日(月)の間に打ち上げ\

くられる予定であるが、現在スケジュール等を調整中である。

注) CS-2b/N11(F)及びTT-500A-13の打上げが8月26日(金)までにできない場合は、8月27日(土)から9月19日(月)までの期間のうち、宇宙科学研究所の打上げ実験(内之浦)が行われない日を選んで実施する。